

令和5年度
(2023年度)

学校関係者評価報告書

令和5年(2023年)4月1日から
令和6年(2024年)3月31日まで

令和6年(2024年)8月30日

学校法人吉田学園
北海道スポーツ専門学校

■令和5年度 学校関係者評価について

(説明)

自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する卒業生・関係業界・専門分野の関係団体等の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的に学校関係者評価を行いました。

1. 実施日時

令和6年8月30日(金) 16:20~17:20

2. 実施場所

北海道スポーツ専門学校1号館 502教室

3. 実施方法

(1) 実施組織 学校関係者評価委員会

評価委員	小野寺 隆彦	一般社団法人日本フットサルトップリーグ専務理事
	中西 康隆	ていね駅南口治療室代表
	金子 知	社会医療法人朋仁会整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長・リハビリテーション部長
	吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会事務局次長 兼総務・会計課長

○学校関係者

滝本 玲	北海道スポーツ専門学校 校長
大森 達也	北海道スポーツ専門学校 副校長
齋藤 敬男	北海道スポーツ専門学校 学科長
今北 雄太	北海道スポーツ専門学校 副学科長
藤田 真	北海道スポーツ専門学校 iB 事業部 副部長
千保 大聖	北海道スポーツ専門学校 主任

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠する

(3) 評価方法：令和5年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価。

4. 評価項目

次の11項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価しました。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項

項目1 教育理念・目標について

- ・ 項目評価 3.8
- ・ (学校)日々変化する業界ニーズと社会的背景等に対応すべく、学校の将来構想を適宜、具体的なものとして明確に打ち出し、共有・周知が必要である。

項目2 学校運営について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目3 教育活動について

- ・ 項目評価 3.8
- ・ (学校)体系的に整備されたカリキュラムをベースに、特に資格取得に係る指導体制(担当教員の授業スキルアップ・教育力強化に繋がる関連分野における研修等の実施・参加、組織的管理等)の確立が必要となる。その中でも、資格取得率向上が最優先課題である。今後の改善方策について、「専門学校グループ 教育基軸(授業運営)」やグループ校の実践的知見の活用を推進し、特に資格関連科目の授業スキルと指導力の強化を図り、管理者を交え計画的かつ組織的な取り組みを進める。また、資格取得において学生のモチベーション維持を目的としたグループワークの活用や段階的な達成型授業の実践を図る。
- ・ アスレティックトレーナー専任教員の確保が課題となっており、充足を図りたい。
- ・ 各種研修会(オンラインセミナー等)を活用したり学校独自の研修会等を開催したりしながら自己研鑽の機会を提供できてはいるものの、それが十分に実践されるに至っていないため、今後はその為の支援や働きかけを実施する。

項目4 学習成果について

- ・ 項目評価 3.4
- ・ (学校)資格取得率の向上について、担当教員が中心となり合格率向上に向けた具体策を実施してきたが、主要資格(アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者、JATI トレーニング指導者)については合格目標値に及ばなかった。他の資格についても十分な安定感を維持できていない。

今後の改善方策として、資格取得へのモチベーション向上、資格取得の必要性を認識できるよう、段階的な達成型授業の構築を行う。また、グループワークを用いクラス全体で資格取得に向かう環境づくりを行い、組織的かつ計画的な取り組みにより学生を資格取得まで牽引していく。さらに、「学内模擬試験を充実させ時期による習熟度の把握・段階的指導」、「補講実施」、「専門学校グループ 教育基軸(授業運営)やそれに付随する各種研修会・勉強会による授業スキル、指導力の強化」、「管理者を交えた到達度合いの確認や修正見直し」等の取り組みを図る。

(学校)昨年度から大きく改善が図られ、ほぼ目標を達成した。学生の出席状況含めた学習状況や様子の変化について、早期に把握ができるよう組織的な管理体制の構築に努めていく。

今後の改善方策として、当該クラス担任から上長職までの段階的な指導継続を意識し、学生の早期変化に気付き対応できるよう努める。「専門学校グループ 教育基軸(学生指導)」の理解を深めその活用が図られるよう組織的な管理体制の改善に努めていく。

項目 5 学生支援について

- ・ 項目評価 3.9
- ・ (学校)卒業生の支援体制について、再就職や資格の再受験などに関する相談、問合せがあった際に随時対応しているのが現状である。

項目 6 教育環境について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 7 学生の受入れ募集

- ・ 項目評価 3.3
- ・ (学校)オープンキャンパス参加者からの出願率の向上は図られたものの、定員確保には至らなかった。学校活動全体が学生募集を意識した活動となるよう継続的に取り組む必要がある。
- ・ 資格取得率についてまだまだ向上させる必要があり、教育成果としては不十分の為改善が求められる。

今後の改善方策として、学校で取り込まれる全てが学生募集活動であることを理解し、あらゆる教育活動(資格取得率等)における結果の追究」「オープンキャンパス参加者の満足度向上(高い出願率)」、「高校部活動(顧問)との接点強化」、「産業界との連携のPR」等、全職員が協力体制で臨む。また、より多くの魅力が発信できるオープンキャンパスの在り方を継続検討していく。

- ・ (委員)収支を考えた場合に、あと何人程度の募集が必要なのか。18歳人口が減っていく中であるが定員充足に向け取り組んでもらいたい。
- ・ (学校)引き続き、定員充足を目指し、より計画性を持って業務に当たっていく。

項目 8 財務について

- ・ 項目評価 3.0
- (学校)近年入学者の増加は図られているが、定員確保にまでは至っておらず、引き続き改善に努めたい。また、予算・収支計画については、有効性や妥当性をより慎重に判断しながら進めていく。今後の改善方策として、学校の魅力付け・教育力の向上に注力し、募集活動の強化に繋げることで定員充足率を上げる。また、退学率の低減についても改善を行うことで在籍率の向上に努める。

項目 9 法令などの遵守について

- ・ 項目評価 3.8
- (学校)問題点の改善が図られ結果に繋がりがつつあるものの、改善が不十分な点もあり、継続的な取り組みが必要である。今後の改善方策として、本校の問題、改善点について教職員に共有し、委員会の場以外でも確認や検討の場を設け、定期的かつ継続的に PDCA サイクルを回していく。

項目 10 社会貢献・地域貢献について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 11 国際交流について

- ・ 項目評価 ー
- ・ 令和 5 年度の留学生在籍なし